

VUCA 時代における高大・高専接続の重要性の考察

堀江大樹（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 高等課程）

Consideration of the importance of connecting classes between high school, university, and vocational school educational content during the VUCA period

Daiki Horie

要 旨

高大連携は中央教育審議会による 1999 年 12 月の答申「初等中等教育と高等教育との接続の改革について」において「学生が高校教育から大学教育へ円滑に移行できるようにする」という「接続教育」として提唱され劇的に拡大してきた。その後、大学全入時代に突入し改めて高大・高専接続の重要性を考察し本校での実践を報告する。

キーワード VUCA、接続授業、100 年時代、少子化、家庭環境の変容

I. はじめに

人生 100 年時代に入り転職が当たり前の現代において「夢」という概念が変容しつつある。なりたい仕事に就く＝夢という概念でいくと新たな職が出来たり既存の職が無くなってしまったりする VUCA 時代では夢があいまい化している。そして一生のうちに夢は複数回掴むことになり高校で見つける夢というものは 1 度目のものであると言える。これから先を生きる子どもたちには「学び続ける姿勢」が原則となりさまざまな経験から掛け合わせて新たな職業に活かしていくことが必要となってくる。そのために、旧来の高校と上級学校が離れた立場であるシステムではなく、柔軟な対応や敏感な変化を察知できるような体制として高大・高専接続が重要と考えられる。

II. 高大・高専接続のねらい

連携授業の起きた背景としては 3 点あると言われている。1 つ目は上級学校進学率の上昇と少子化の進行で就職段階において高度な知識や能力が求められるようになった。2 つ目に高等学校教育の多様化の進化が挙げられる。社会の多様化と生徒の多様性の進行が要因となり情報化、国際化、高度技術化、少子高齢化などの社会の急速な変化が進行。さらに生徒の学力、適正、関心、価値観などがさまざまになってきておりその多様性の受け皿として高等学校教育の多様化が求められるようになった。その中で、本校のような総合学科としての高校教育の設置が進められるようになった。総合学科では普通科の授業カリキュラムと

並行して専門、教養科目を履修できるところに特徴がある。文部科学省の高等学校教育の改革に関する推進状況^{図1-1}によると平成11年度124校から平成28年度375校まで増加し

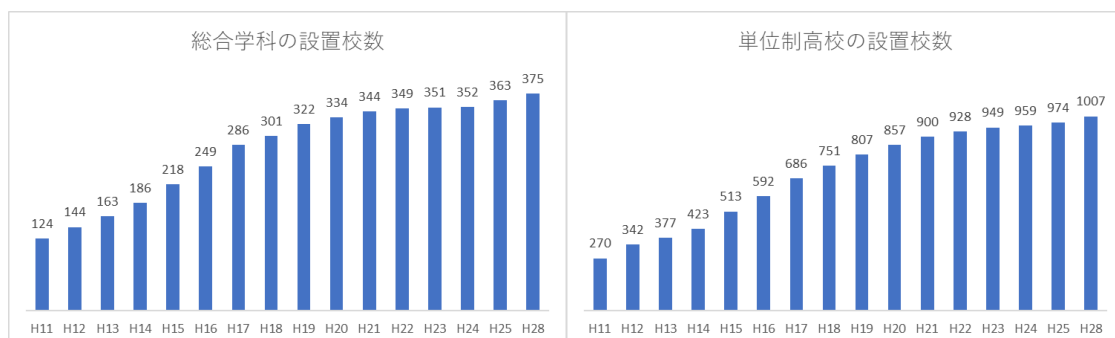


図1-1 出典：文部科学省(2017)より筆者作成

図1-2 出典：文部科学省(2017)より筆者作成

ている。単位制高校も同様に増加傾向^{図1-2}にあり平成11年270校から平成28年1007校と増加しており多様化を受け入れる準備が上級学校に必要となっていることがわかる。

3つ目に「ゆとり教育」などによる学力の低下があり詰め込み教育時代以上に学力格差が確実に開いているのが現状となっている。さらに、少子化の影響により大学の進学率の上昇傾向は変わらず、大学全入時代となり上級学校進学が容易になってゆく、それにより意識の差も生まれてしまっているという現状。目的があまりないまま進学してしまうことにより学習に積極的に取り組めない、学生生活不適応などの問題がある。専門学校生の修学状況に対する調査【令和3年12月】^{図1-3}での数値では学生生活不適応・修学意欲低下が26%と極めて高い数値が出ている。以上3点の理由が高専・高専接続授業のねらいとなる。

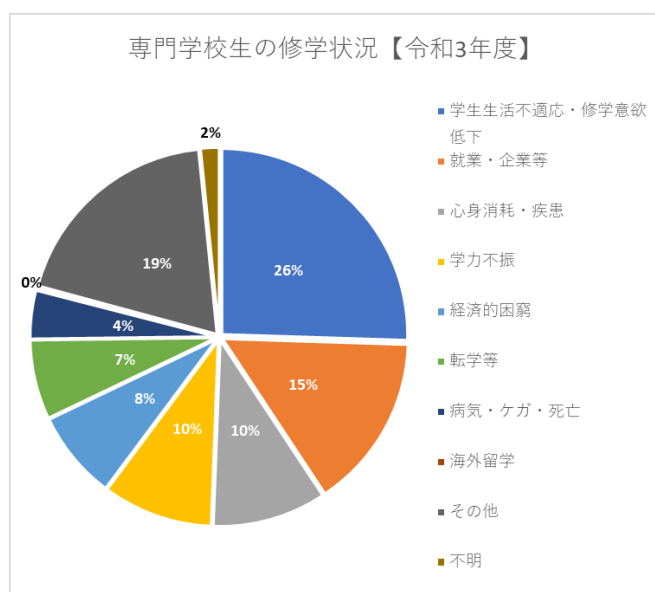


図1-3 出典：一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団より筆者作成

Ⅲ. 他者との関わりと家庭環境の変容

高校生が進路を決定する際には保護者の同意が必要となる。しかし近年では家庭からのアプローチが減少し生徒自身の自主性のみで決定していくことがよく見られる。このことは文部科学省の「地域の教育力に関する実態調査」報告から個人主義の浸透や母親の就労の増加、居住形態の変化などの背景があり、地域と児童・生徒との関わりの希薄化がみてとれる状況にあることがわかる。

近年の子どもたちは Z 世代と呼ばれ、生まれながらにしてネットワークが構築された時代を生きている。情報収集力は長けているが新しいコミュニティを確立していくことに対してのソーシャル・スキルが弱い为学校教育の中に地域との関わりが途切れないように積極的に取り入れていきソーシャル・スキルの底上げをする必要がある。

Ⅳ. 本校における高大・高専接続の導入

1. 経緯

大学・短大・専門学校と上級学校への進学率は年々上昇していく反面、進学後のドロップアウトも増加している。図 1-3 の学生生活不適応・修学意欲低下 26%に関しては高校時代の進路選択のミスマッチから生まれやすいものであり、本校のように高大・高専接続授業を導入することにより救えたケースは多いのではないかとと言える。入学前に上級学校の学びを経験することができれば向き不向きの確認は高校在学中に確立することができる。(授業接続イメージ^{図 2-1}参照。)

また、近年では学生支援機構の貸与奨学金制度を利用した進学が極めて多く、奨学金を受給している学生の割合^{図 2-2}のように半数近い生徒が利用している。貸与奨学金ということもあり上級学校卒業後は生徒自身が働いて支払っていかなくてはならない。例え退学をしたとしても貸与分に関してはその後支払いが続いていく。このような無意味な貸与をしなくてもいいようにするためにも接続授業は重要な役割となっていくのである。

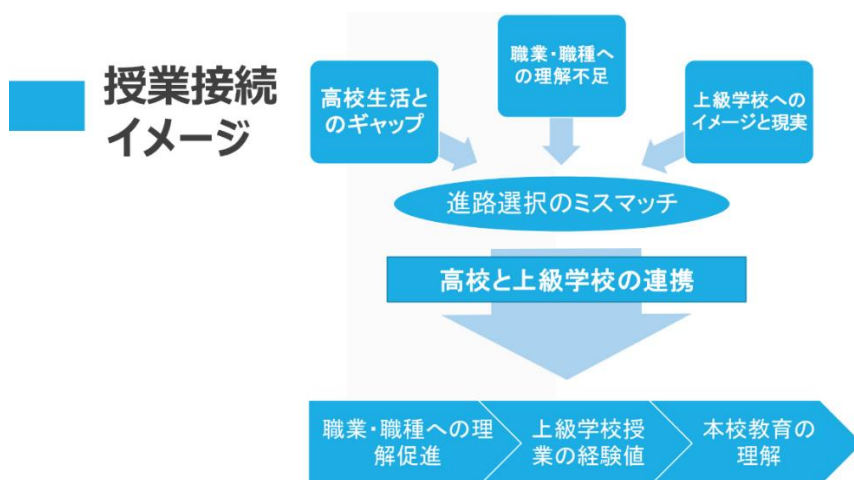


図 2-1 筆者作成

奨学金を受給している学生の割合

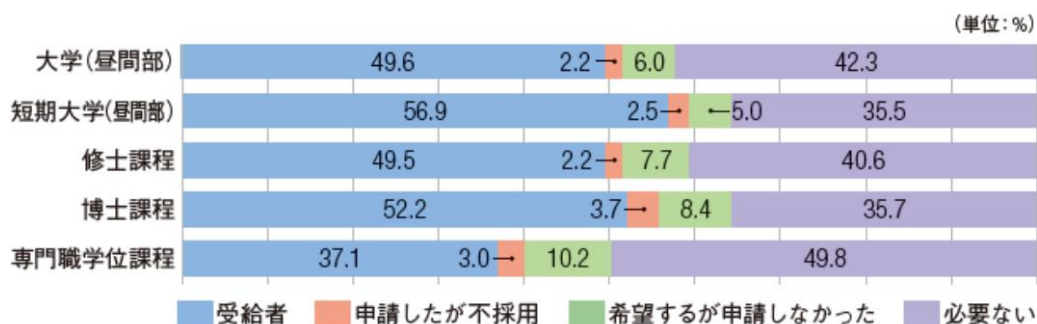


図 2-2 公益財団法人 生命保険文化センター

2. 協同学習とソーシャルスキル

協同学習は、ソーシャル・スキルと深く関連すると考えられる。さまざまな協同学習論においては、子ども達が相互に協力し、そこで相互作用が促進されることで、学習意欲が高まるとしている。逆に、ソーシャル・スキルが十分身につけていなければ、グループ学習を実施しても、協同学習の効果は弱いという指摘もある。ところが、接続授業を通じて大学生・専門生を介入させることで、仮にソーシャル・スキルが十分に身につけていない高校生であっても、効果的に協同学習が行え、結果としてソーシャル・スキルが向上することが期待できる。本校の接続授業に関しても同様のことが結果として出ており、接続授業を通じて自信がつき、進路決定に結びついた例もいくつかある。次の「3. 本校での取り組み」において協同学習とソーシャル・スキルの重要性を図で説明したい。

3. 本校での取り組み

本校では選択授業^{図3-1}という時間が2、3年次に組み込まれておりこの時間を高大・高専接続授業として運用している。生徒は前期生活創造ゾーンの調理製菓分野かファッション分野のどちらかを選択し半期間学んでいく。接続先の学校によっては半期間すべての授業に参加していただける学校や1年間通して参加していただいている学校もある。(内容等は資料 1-1「シラバス」を参照)。後期には社会貢献ゾーンの保育分野か医療福祉分野を選択し1年間接続授業による学びをする流れとなる。

2、3年生

選択授業

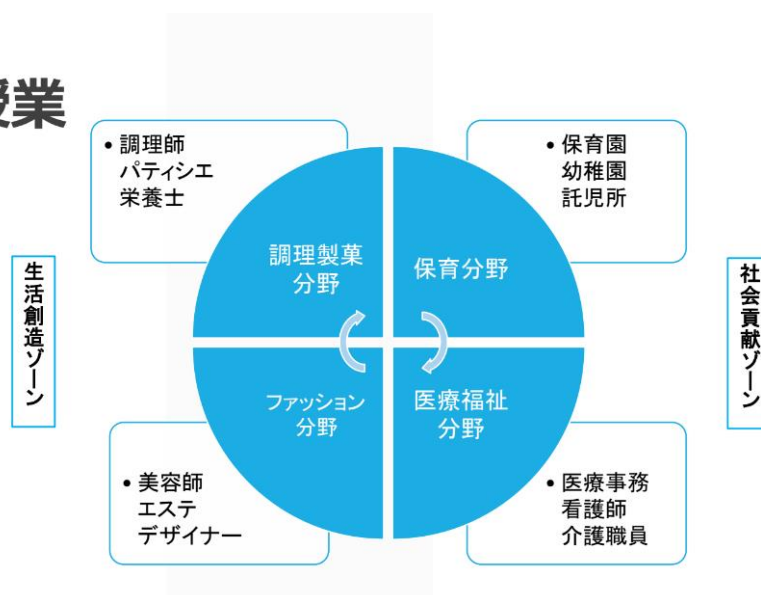


図 3-1 筆者作成

本校のように高大・高専接続授業のためのカリキュラムを編成しているが学校は少ないようで、昨年では「CAREER MAP Labo」という雑誌にも取り上げていただいた。その際の生徒コメントを紹介したい。

生徒コメント

就職につながる美容・調理・福祉・保育などの専門知識が学べて一般教養も学べる総合学科に惹かれて本校を選びました。特に、美容の授業は毎回楽しみにしています。髪の毛を染めたり、パーマをかけたり、人をきれいに变身させる美容師の仕事ってカッコいいなと思っていただけ、その裏では道具の準備をしたり、衛生に気を遣ったり、お客様に不快な思いをさせないように気遣っていたなんて、発見がいっぱいでした。一番はお洒落でカッコいい専門学校の先輩たちと一緒に作業ができること。「今日ね、パーマの体験したんだよ。専門学校の先輩も来ててカッコよかった！すごいでしょ？」って、家族や普通科高校に通う友達にいつも自慢しています。この接続授業をきっかけに知ることが楽しくなって、他の科目ももっと勉強しようという気持ちになりました。

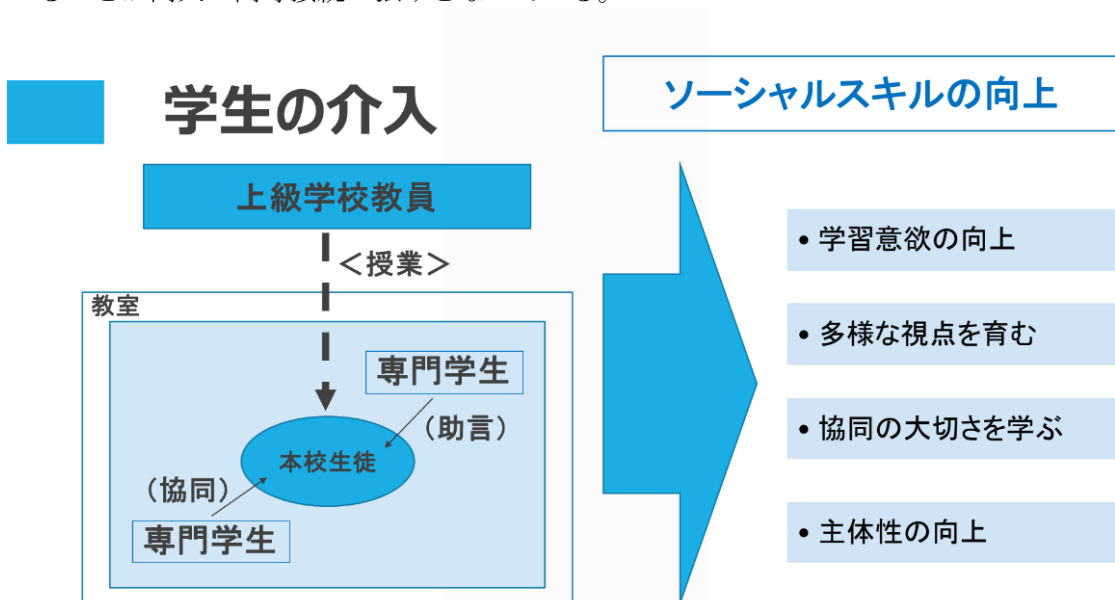
この生徒コメントからわかるように、生徒自らが協同学習の大切さとソーシャル・スキルの向上を物語っている。本校では高大・高専接続の必要性^{図3-2}を明確にしておりこの目的に沿ってカリキュラムを運用している。

その他、生徒アンケートについては資料 1-2 参照。



図 3-2 筆者作成

また、本校生徒コメントにあるように学生の介入^{図3-3}による効果も発揮されている。上級学校の学生や上級学校教員が介入していくことで協同効用が向上し個人志向が減少する傾向が見られた。高校教員が教えるというタテの関係や高校生同士というヨコの関係性ではなくナナメの関係性である専門学生が高校生に深い気付きを与えている働きが大きいと言える。このように専門学校の学生たちとの共同作業を通して、コミュニケーション能力や協力する大切さを学習することで将来必要となる資質を獲得することがスムーズにできていることが高大・高専接続の強みとなっている。



V. アンケートの結果と分析・考察

資料 1-2 高大・高専接続授業 生徒アンケートから見られるように生徒の満足度は非常に高いことがわかる。アンケート 1、2 では知識や技能が身についたという実感を得ることができた生徒は 80%以上の生徒となっており、接続授業としての効果が発揮できていると言える。特に興味深いのはアンケート 5 この教科を選択した理由 で選択した際は進路に直結すると思い学習した生徒が 63%いたが、アンケート 6 この教科を終えて最もあてまるものはどれですか。の際には同じ分野でさらに高い分野を学びたいでは 56%と減少が見られている。これは進路ミスマッチを回避できた結果と言えるであろう。

VI. 最後に

本校での高大・高専接続授業は 2021 年からスタートし今年で 2 年目となった。今後も加速していくであろう DX 化の波による子どもたちへの影響を考察しつつ今後も新たな取り組みを実践していきたい。また、多様化が促進されることは良いことの反面、それに伴う代償が必ずあらわれる。筆者が本校に入職し 10 年が経ち生徒の質は大きく変わった。外的な生徒から内的な生徒へそしてさらに内的な生徒の増加。無限に繰り返されるスクロール依存による脳の支配。自己愛が欠損した大人たちの増加など。さまざまな環境要因に懸念があるが、子どもたちの自己愛を保つために日々健闘していきたい。

最後に本校授業に協力してくださった先生方、学生の皆様、本論文を作成するにあたり深く感謝を申し上げます。

参考文献

- 1)川合宏之：高校生と大学生がともにつくる 高大連携授業. 晃洋書房. 2021
- 2)中央教育審議会：初等中等教育と高等教育との接続の改革について答申. 1999 年 12 月.
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/991201.htm)
- 3)文部科学省：高等学校教育の改革に関する推進状況（平成 28 年度版）
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/detail/1384268.htm)
- 4)一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団：専門学校生の修学状況に対する調査. 令和 3 年 12 月.
(https://www.sgec.or.jp/scz/book/22_senshukyoiku043_08.pdf)
- 5)公益財団法人 生命保険文化センター：ライフイベントから見る生活設計. 2020 年 11 月
(<https://www.jili.or.jp/lifeplan/lifeevent/761.html>)
- 6)株式会社グッドニュース：CAREER MAP Labo Vol.03. 「高専接続のススメ」 P. 29. 2023.

資料 1-1 シラバス

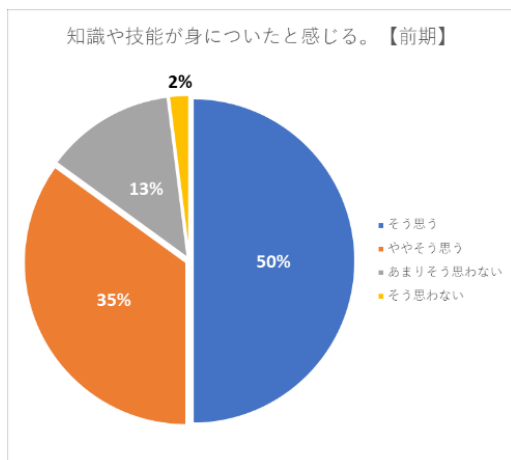
令和 5 年度 年間学習指導計画表				
2 年 総合学科	教科： 選択医療福祉	単位数：	2 単位	後期
教科目標： 医療福祉に関して学び、その人材の必要性、やりがいを理解する				
キャリア教育目標： 視聴する動画や配布資料に登場する医療福祉の仕事を理解する				
理想生徒像： 医療福祉の仕事について、自ら興味を持ち調べ、今後、学内外の体験学習で確認する。				

授業の進め方： 動画を視聴して、必要に応じて、実技と演習を行う。

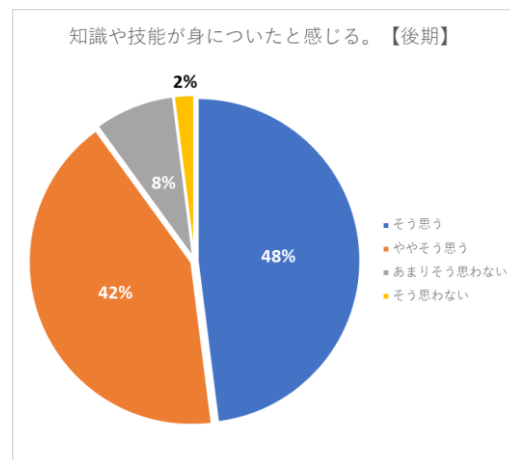
学期	月	授業数	単元	授業内容
後期	10	2 コマ× 3 回	10 月 4 日 4,5 限目は〇〇先生が行います。 ・「“生命の誕生”謎多き神秘の世界」(10 月 11 日、25 日 4 限目：2 回) ・「過疎地の病院を救え 新米医師の奮闘」(10 月 11 日 5 限目：1 回) ・「おうちに帰ろう医療者たちの新たな挑戦」(10 月 25 日 5 限目：1 回)	・受精卵のイメージと主人公の出産前後での出産に対する気持ちの変化について、考えよう。 ・受精卵から臓器（心臓、肝臓、手、足、肺、腸、胃）ができる順番を確認しよう。 ・登場する医療福祉の職種について学ぶ。 ・障害、障害需要、QOL、カンファレンスについて学ぶ。 ・移乗、チーム医療について考える。
	11	2 コマ× 4 回	・「“骨”が出す！最高の若返り物質」(11 月 1 日 4 限目：1 回) ・「決して、ひとりにはさせないから」(11 月 8 日、15 日、4 限目：2 回) ・「“健康”メンタルヘルスと睡眠」(11 月 29 日 4 限目：1 回) ・「おうちに帰ろう医療者たちの新たな挑戦」(11 月 1 日、5 限目：1 回) ・「新時代への兆し「変異株を検出せよ！日本のPCR検査最前線」(11 月 8 日、5 限目：1 回) ・ヒューマニエンス「“老化” その宿命にあらがうか 従うか」(11 月 15 日 5 限目：1 回) ・ヒューマニエンス「筋肉 感応する奇跡のシステム」(11 月 29 日 5 限目：1 回)	・骨の特徴、破骨細胞と骨芽細胞の役割を知る。 ・保健師の業務について知る。 ・睡眠が健康に及ぼす影響を知る。 ・看取り、体位交換について考える。 ・ヒューマンエラーについて学ぶ。 ・センチナリアとは。 ・筋紡錘について学ぶ。

	12	2 コマ× 1 回	・「在宅医・紅谷浩之 子どもたちとドクターGO」(12 月 6 日 5 限目：1 回) ・“健康”腸活 (12 月 6 日 4 限目：1 回) ・「在宅医・紅谷浩之 子どもたちとドクターGO」(12 月 17 日 4 限目：1 回) ・「あなたと共に生きたい 細井恵美子さん 9 1 歳 介護現場への想 (おも) い」(12 月 17 日 5 限目：1 回)	・医療的ケア児について考える。 ・腸活を知る。 ・医療的ケア児について考える。 ・介護現場を知ろう。
	1	2 コマ× 3 回	・「ヤングケアラー」(1 月 17 日 4 限目：1 回) ・「車いすレーサー青木琢磨」(1 月 17 日 5 限目) 1 月 31 日は松井先生が行います。	・ヤングケアラーについて学ぶ。 ・車いすレーサーと医療従事者との関わりについて学ぶ。
	2	2 コマ× 1 回	2 月 14 日は〇〇先生が行います。	
	3			

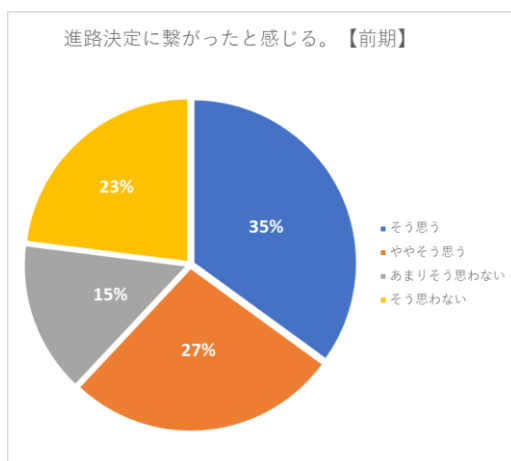
資料 1-2 高大・高専接続授業 生徒アンケート



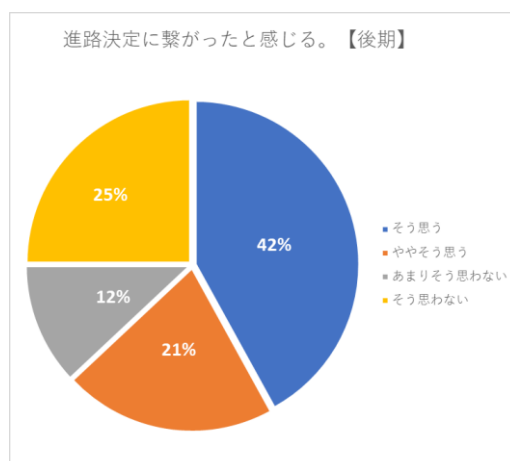
アンケート 1



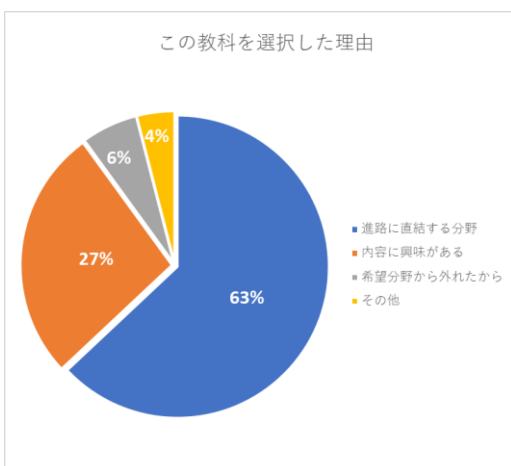
アンケート 2



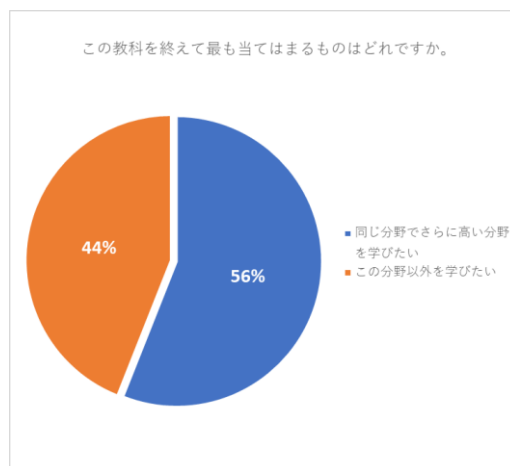
アンケート 3



アンケート 4



アンケート 5



アンケート 6

資料 1-3 高大・高専接続授業での様子



